



## ご卒業おめでとう 14名が旅立ち

3月17日、第20回内外海小学校卒業式を無事終えることができました。白い景色の中でしたが、凜と引き締まった中に、晴れやかな表情があふれていました。卒業生が、小学校生活の思い出や、卒業の喜び、将来の夢を語り、今後の内外海小学校を在校生に託しました。在校生は、6年生一人一人との思い出や感謝を、6年生の心を引き継いで素晴らしい学校にしていく決意を語りました。14名の6年生が胸を張って堂々と卒業していきました。

### ▶式辞の中から抜粋

(前略) 君たちに出会い、過ごしたこの1年間は、私にとっても忘れられない年になりました。

道徳の授業で「夢」をテーマに話し合ったことから「夢に挑戦!」という歌が生まれ、元気な学校をつくる大きな風になりました。創立20周年記念事業で歌声がひびきました。内外海の素晴らしさを、奈良市役所でPRした修学旅行。灼熱の中での体育大会、応援合戦のエール、戦争をテーマに調べたことを発表した学習発表会、内外海の歴史を、自分の未来、自分の生き方につなげていた発表は素晴らしいものでした。「いじめ」をテーマに制作したドラマづくり、「青空」というタイトルのいい作品ができました。

「青空がこんなにきれいなのは 青空の下にいるみんなの心がきれいだから…人はぜったいひとりぼっちにならない」いつも心に「青空」があれば、どんなつらいときも、自分を見失うことなく進んでいける。6年生の仲間が書いたこの詩の通り、14名はしっかりと心をつなぎました。

凍てつく雪の道を、6年生が1年生の手をしっかりとぎって登校していましたね。かじかんだ手に伝わる温もり、6年生の生き方は在校生が引き継いでくれると信じています。縦割りのチームワーク、つながりは、この学校の校風となり、伝統として未来をつないでくれるでしょう。(中略)

校歌に「幸せあふれる我らの港」とあります。内外海小学校は港です。今、みなさんはこの港を出港していくのです。内外海の「海」は世界に広がり続いています。夢と、志を持ち、目標に向かって進んでください。行く手にはどんな嵐が待っているか分かりません。星を仰ぎ、自分でしっかり舵をにぎり、夢に挑戦してください。

新しい道の岐路で、どちらの方向に行くか、自分で決断しなくてはいけない場面にでくわします。そのとき、聞こえてくるのは、自分の内から聞こえてくる言葉です。その言葉を信じて進んでください。みなさんの前途に幸多かれと祈ります。旅立ちに贈る言葉は「内外海」です。

「内を充実せよ、外に光り、海、すなわち世界に広がる」

君たちの未来は、無限の可能性にあふれています。人生の海でまた会いましょう。ご活躍を心からお祈りします。

(後略)

## 東日本大震災の被災地へ祈り ～同じ空の下の痛み

3月11日に東北の三陸沖で起きた大地震は、言葉を失うほどの多数の犠牲者と大きな被害をもたらし、この国は大きな悲しみの中にあります。私たちに何ができるのだろうか。気持ちばかり焦り胸が押しつぶされそうです。

3月14日、玄関のホールで全校集会をしました。象のさゆりさんを囲んで光をともし祈りました。地震の状況の新聞記事をパネルに貼ったら、「何か役にたきたい」「人を助けたい」「多くの人が亡くなって悲しい。一人でも多くの方がたすかってほしい」など、子どもたちが短冊に自分の気持ちを自主的に書き始めました。被災地の子どもたちがテレビのインタビューで「私は命が助かったので、私も人を助ける仕事がしたい」と話していました。この子の強さに感動しました。同じ空の下の痛みを感じている子どもたち、同じ気持ちを分かち合っています。この国は必ず立ち直れると思います。悲しみが、光になり、力になり、未来になる日を願い子どもたちと祈ります。

【あとがき】卒業式で内外海という港から出航した14名の子どもたちの未来に光あれ。ご支援くださった地域の皆様に心より感謝申し上げます。